

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270500329		
法人名	有限会社 幸久の家		
事業所名	グループホーム 陽だまりの森湯と里館		
所在地	島根県大田市久利町久利691		
自己評価作成日	平成30年2月23日	評価結果市町村受理日	平成30年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/32/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ケーエヌシー
所在地	島根県松江市黒田町40番地8
訪問調査日	平成30年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域周辺には小学校や保育園、老人会もあり、合同で運動会や花壇づくりなどの行事を行っている。また、地域のお祭り等の行事への参加を実施し、地域交流を図っている。
外部、内部研修、避難訓練などの参加、実施をして、質の向上に努めている。
ご家族とは来所時や電話時に利用者様の状況を報告したり、行事への参加を呼び掛けている。
食事については、三食ホームで作っており、可能な範囲でメニューを一緒に考えたり、調理への参加もしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

陽だまりの森は、三瓶山の広大なすそ野の緑豊かな田園地帯に立地している。事業所は地域の一員として自治会に加入し、地域住民との連携を深めている。利用者は地域の人達と機会あるごとに交流を図りながら穏やかに生活を楽んでいる。職員は、利用者と一緒に、趣味活動等を行い、利用者へ寄り添うケアの質向上を目指している。家族の来訪時には本人の思いや希望は、報告が行われ、困難なケアには、来訪時ばかりではなく電話でもコミュニケーションをとりながら本人の希望等把握して、ケアプランに反映させ、利用者本位にケアの改善に努めている。利用者は、職員と一緒に作成した献立表により五感を楽しみながら調理をし、盛り付け等も職員と一緒に、職員の介助も受けながら、職員と共に同じ食卓を囲みながら食事を摂り、日々の生活感を楽んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全部署共通の介護理念はあるが、グループホームとして個の理念は作成していない。 そうめん流しや運動会など地域との合同行事を実施している。	五つの介護理念は玄関等に掲示されている。理念は職員会議で唱和し共有しながら、利用者本位に生活支援を行っている。五つの介護理念からケアに反映されるグループホームの根本的理念が検討されている。	理念はケアを振り返り、立ち戻る原点です。五つの介護理念を一本化してケアに反映される根本的な理念について意見統一を図ることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。草刈りやごみ当番等の地域行事への参加をしている。同じ町内の市議員の方には運営推進委員になっていた。また、地域の小学校、保育園、老人会との交流も定期的に行っている。	自治会に加入し、町内のゴミ当番や行事に参加をしている。町内の市議員は、ボランティアとして運営推進委員に委嘱されている。地域の小学校、保育園、老人会とは流し、そうめん等の行事で交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校へお邪魔して、職員が高齢者体験授業として、児童に高齢者の身体のことなどを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度運営推進会議を開催し、活動状況の報告などを行っている。頂いた意見についてはユニットの会議で検討し、結果を報告している。	2ヶ月1回の運営推進会議では委員に委嘱された市担当者、包括職員、地域住民、利用者家族、知見者等は、ケア報告状況に双方向的な意見が交わされ、ユニット会議はその意見等を話し合いケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員が月に一度来所され、情報交換、利用者からの意見を聞き出さいただき、検討している。相談員は運営推進委員にもなっている。	市の介護相談員は、運営推進会議委員に委嘱され、月に1回来訪、利用者から意見を傾聴し、職員と意見交換をしたり、情報交換をしたり、ケアサービスの取り組みの連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状、防犯目的で24時間施錠している状況であるが、利用者様が外に出たいときには開錠している。身体拘束に関することがあればユニットの会議で検討している。また外部の研修にも可能なときには参加している。	身体拘束をしないケアの認識はユニット会議で共有されている。拘束は駄目の意識づけ会議は行われていない。玄関の施錠は長野県の事件から利用者の安全確保に現在では行い利用者の外出希望時は開錠している。身体拘束外部研修参加は随時である。	身体拘束をしない外部研修参加は必須のものとし、当研修の報告会も同様に考えて、身体拘束は駄目だという意識づけをおこない、玄関は施錠しない工夫に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加、内部研修の開催をしている。虐待に関することがあれば、ユニットの会議で検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は外部研修に参加はできず、十分な取り組みはできなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定の際は理解、納得できるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置。また、運営推進会議や来所時等が主に意見を聞く機会、頂いた意見は会議で検討。利用者については担当者会議等で検討しているが十分かどうかはわからない。	意見等を扱う窓口はないが、意見箱、運営推進会議、来所時の家族等から意見を把握し、ユニット会議、リーダー会議で検討をしている。利用者のケアは担当者会議等で検討し、運営に反映されるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	あらためて聞く場は設けていないが、職員会議などで意見が挙がることもある。挙げた意見は内容に応じて、上部で検討、代表者に報告している。	運営に関する職員の意見等は、職員会議・ユニット会議等で話し合わせ、運営に関する大事な意見は管理者や代表者に挙げて対応を検討し運営に反映するように報告をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎朝、朝礼で職員と顔を合わす機会を設け、職員から意見があった時には都度検討をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人やリーダー、他職員から状況を聞き取り、把握に努めている。個々に必要な研修などあれば、進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のGH部会に加入しており、勉強会などに参加したり、そこで情報交換などしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のアセスメントから本人の思いや不安など聞き取り、現場職員と検討している。入居後も本人の発言に耳を傾け、対応、検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時にはご家族の意見、要望を確認している。生活状況などの報告、行事などの参加の呼びかけをしたりして、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居決定の前に、可能な方には事前見学を進めている。見学をして頂いてご本人、ご家族の意思確認を行い、入居となれば、その際の様子も含めて入居後の対応等、検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や一緒に食事をしたり、掃除等、出来る限り一緒に行うことで共生意識を持てるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日にはご家族の意見を求めて、計画している。また、行事への参加も呼び掛けているが、実際に参加して下さるご家族は少ない。 受診対応はご家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時には地元の方に外出したり、自宅に行ったりしている。また、ご家族の協力のもと、定期的に自宅に外泊される方もおられる。馴染みの方の面会もある。	自宅や馴染みの地元の方への外出は見守っている。家族の協力による花見墓参りの外泊も行われている。馴染みの人の面会も自由に行われている。餅や団子の持ち込みは注意しながら、関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入し、一緒に作業、会話できるよう声掛けしている。関係性が良い方もおられるが、孤独感を持たせてしまっている方もおられると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な取り組みはできていないが、相談などあれば、可能な限り対応していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での発言、行動、困難な場合は、以前の暮らしぶりから、本人の意向を確認し、支援できるように努力している。	日々のケアで、利用者の思いや希望等は言葉による把握は会議で注意して行っている。困難な時は、利用者の動きや見守り等により以前の暮らしぶりをアセスメント、カンファレンスしながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人から聞き取りをして、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録として日々の様子を記録して、各職員が周知できるように努力している。ただし、記録が十分でなかったり、周知が出来ていない状況も否定できない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実際に本人、ご家族がそろっての担当者会議は現状難しいところがある。ご家族は来所時や電話などで意見を求めたりして、計画に反映させている。	本人・家族を交えての担当者会議は、困難であり、家族来所時や必要な時電話で思いや意見を傾聴して、リーダーと管理者でケアプランを作成し、モニタリングは6カ月に1回行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録、勤務前には記録を見て勤務している。ただ記録が十分でなかったり、周知出来ていない状況も否定できない。定期的にモニタリング、評価を行い、必要があればプラン変更をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夜間も含め受診などの対応について、ご家族の状況に応じて、付き添いや対応を行っている。今後、同法人内のデイサービスとの交流も検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校や保育園、老人会と合同行事を毎年行っている。また、ホームで作成した雑巾を小学校、保育園に寄贈している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医についてはご家族、本人の意向に合わせている。病院によって、往診、受診があり、特変時には本人、ご家族と相談し、主治医に報告し、指示をもらっている。	家族本人の意向を尊重して、かかりつけ医との関係を継続している。協力医の受診・往診も行われている。特変時は、本人家族等と相談し、主治医に報告し、指示を受けて適切な医療受診の対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHと契約している訪問看護の看護師が定期的に訪問され、健康管理を行っている。何かあれば24時間相談、訪問してもらえるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、長期の可能性があればあいで状況確認を行っている。退院前にも状況確認を行い、その際には退院後の相談もし、受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期の段階では確認できていないが、現状としては、可能性が出た時点でご家族、主治医、訪問看護と相談している。	看取りのケアは、以前かかりつけ医の協力や家族の協力により行われた体験がある。看取りのマニュアルは、平均介護度が2.3の現状により今後の課題となっている。訪問の看護師にも協力を頼み、家族の協力を優先に考える看取り対応を検討している。	看取りのケアは、いずれ急迫となるので、体験をした看取りケアを活かしたマニュアルを早期に作成する工夫に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法としては年2回法人内で勉強会を行っている。傷の処置等の訓練などは行っていないが、マニュアルは作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内では年2回、火災による避難訓練を実施している。グループホームでは夜間を想定した避難訓練を再開予定。自動通報装置により地域の消防団の方にも連絡がいくようになっている。	火災訓練は、法人が統括し年2回実施している。町内会の参加は行われてはいない。夜間想定避難訓練は、グループホームでは、再開を検討している。自動通報装置は、地域消防団との連携を深めている。	グループホームでの火災時の避難は最優先であるので、避難訓練実施の時はマニュアルによる避難誘導を考えて、町内会の協力が得られる工夫に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切でない声掛けや対応があるのは否定できない。その際はミーティングなどで話し合ったり、個人的に話をするようにしている。	不適切な言葉遣いによる対応が人格の尊重を損ない人間の尊厳を傷つけるケアの認識は共有されている。ケアに不適切な声掛けや対応は、ミーティングで改善し、気づいた時の不適切発言は個別に指導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が選択できるように心がけているが、声掛けが指示的になったりすることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間帯によっては職員側のペースとなることもある。基本的には利用者のペース、希望を優先するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方とは着る服を一緒に選んだりしている。外出時には化粧される方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや、配膳、盛り付け等可能なことは一緒に行っている。介助が必要な方もおられるため、全職員ではないが、職員一人は利用者と一緒に同じものを食べている。	献立表は検食覧を工夫し味覚等検食して安全に摂食している。食材はJAの便もあり、職員は利用者の有する力を発揮して貰い、調理・盛り付け・配膳等に利用者と一緒に五感を楽しむ調理・食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の疾患や口腔内、嚥下状態によって量、食事形態など対応している。一人ひとり食事、水分量をチェックしている。喫茶時等は嗜好品を提供し、確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の気持ちにも配慮しながら行っているが、毎食後は実施できていない。可能な方は自力で歯磨きを行い、必要な方は介助等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にはトイレでの排泄を心がけているが、本人の状態に合わせて、ポータブルトイレ、パッド等の使用をしている。	排泄支援は、トイレ誘導を基本に、見守りにより排尿・排便状態を時間的に排泄記録を作って対応している。記録から適時と思われる時にパッド等の使用や失禁に注意し誘導する等して、排泄自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現状、下剤を服用されている方は多い状況である。毎朝乳製品を摂取していただいたり、水分摂取や出来る限り歩行機会を作り、改善を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があった場合は、希望に沿うようにしている。ただし、介助の有無によって時間帯を限定されてしまう方もおられる。	入浴は希望に沿って、午前の部と午後の部に分けて、時間帯に合わせ、主治医も関わりを行っている。又、介助が必要な利用者は時間帯を限定し入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣や希望により寝間着への更衣をしたり、空調管理など行っている。日中や夜においても、希望を確認し、出来る限り沿うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の処方薬についてまとめて管理している。ただ、すべての薬に関して、効能、副作用等を把握しているかどうかは疑問である。症状に変化があるときは往診や受診時に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方は洗濯物を畳んだり、新聞を折ったり、調理などの作業に参加している。時には車で外出することもあるが、十分な支援が出来ていないとも感じている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域の方の協力体制は確立されていないが、希望があったり、状況によっては多くはないが外出支援をしている。ご家族の協力でも外出される方もおられる。	地域の方のボランティア活動による外出支援はないが、外出希望には、出来るだけ対応に努めている。病院等の帰りは、散歩をしたりする等である。自治会の三瓶山行楽や花見等は、家族の協力による外出を見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することに抵抗のある職員もいることは確かであるが、所持されている方もおられる。ただ、使用する機会はほとんど作られていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	稀に電話で話される方もおられるが、手紙などのやり取りはほとんどない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各所には表示をしている。また、ホールには季節ごとに飾りなどを掲示している。時にはそのままとなっていることもある。空調管理や加湿器の設置もしている。	玄関、廊下、ホールは、利用者と職員共同作業の創造的作品、手芸品、四季の装飾品や色紙が所狭しと掲示され、訪問看護師に対応する好みの表札はドアに掲げ、温度計・湿度計、加湿器も備えられ生活感や季節感を採り入れて居心地よい住環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は利用者ごとに決めている。定着しておられる方は自然と集まり会話が始まることもある。また、特定の利用者について日光浴が出来る場所もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り自宅で馴染みのものを持ってきていただき、その方らしい居室づくりを目指している。必要であれば、ベッドではなく畳を敷いている方もおられる。	居室は、ベッドと衣類等収納タンスは事業所が備え、持ち込み物品は、利用者の使い慣れた好みの調度品、趣味の家族写真・手芸品等がレイアウトされ、心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所には表示をしたり、個人のものには名前を表記し、本人が分かりやすいようにしている。事故の可能性となるものは除いたりして対応している。		